

~ **これまでの施策** ~

1 環境美化活動

本市では、市町村合併以前から旧市町村でさまざまな環境美化活動に取り組んできました。

旧新城市では、「新城クリーンハート・クリーンシティ作戦」「新城クリーンアップ作戦」など市民憲章推進協議会が主体となった大規模な清掃活動や小規模団体の独自の清掃活動への回収袋、軍手などの配布を行ってきました。

旧鳳来町では、「ほうらいクリーンアップ」事業として職員が協力し合い、町内 4 地区の道路清掃事業を行いました。また、各行政区、団体においても独自の清掃活動を展開しています。

旧作手村では、「ゴミゼロ運動」として毎年 3 月の第 1 日曜日に、1 世帯 1 人以上の参加（900 人前後）による村内全域の清掃活動を行うことにより、行政費補助金（ごみ袋購入等）を支給しました。また、各行政区の公共施設周辺やごみ集積場所の美化状況などを審査し表彰を行う「生活環境美化保全コンクール」を平成 14 年度まで毎年開催していました。

< 新城クリーンハート・クリーンシティ作戦 >

新城クリーンハート・クリーンシティ作戦は、平成 4 年度から環境美化活動として行っています。活動は、6 月の環境月間にあわせ、市民憲章推進協議会加盟団体を中心に行政・議会などが一体となり、ポイ捨てごみの散乱が著しい場所を対象にした清掃活動です。

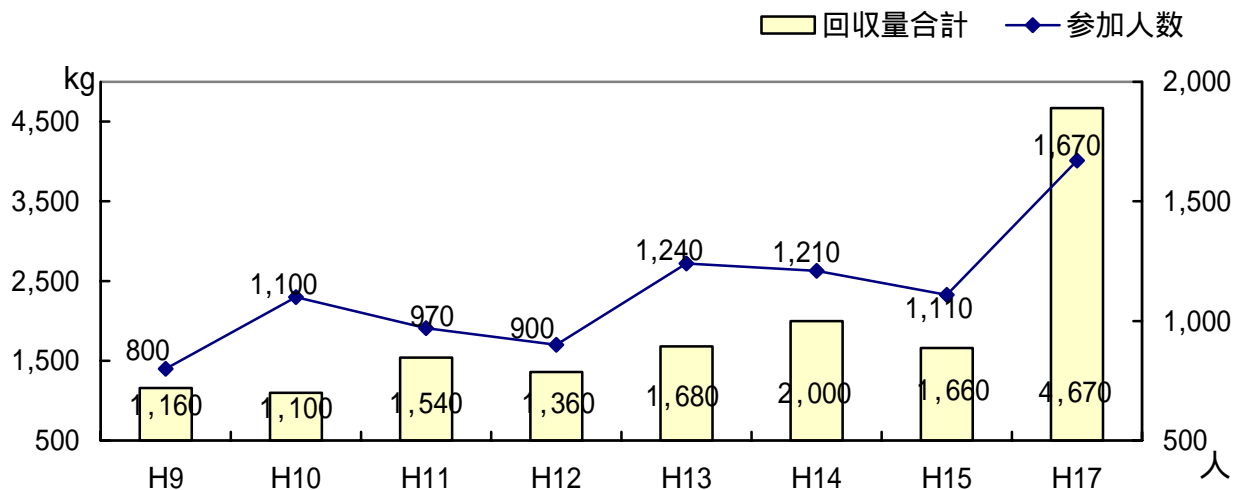
市民憲章推進協議会加盟団体（18 団体）		公共機関等（8 団体）
新城ライオンズクラブ	新城市文化協会	愛知県新城設楽建設事務所
新城ロータリークラブ	新城市体育協会	愛知県新城設楽事務所
新城青年会議所	みどりの少年団	中部電力(株)新城営業所
P T A 連絡協議会	総代会	しんしる環境あいうえお
幼小中学校長会	ボーイスカウト	OSG(株)八名・新城工場
保育協会	ガールスカウト	横浜ゴム(株)新城工場
老人クラブ	新城市商工会青年部	新城市議会
子ども会育成連絡協議会	交通安全協会	市役所部課長会
新城市消防団		新城市生活学校

新城クリーンハート・クリーンシティ作戦実施経過

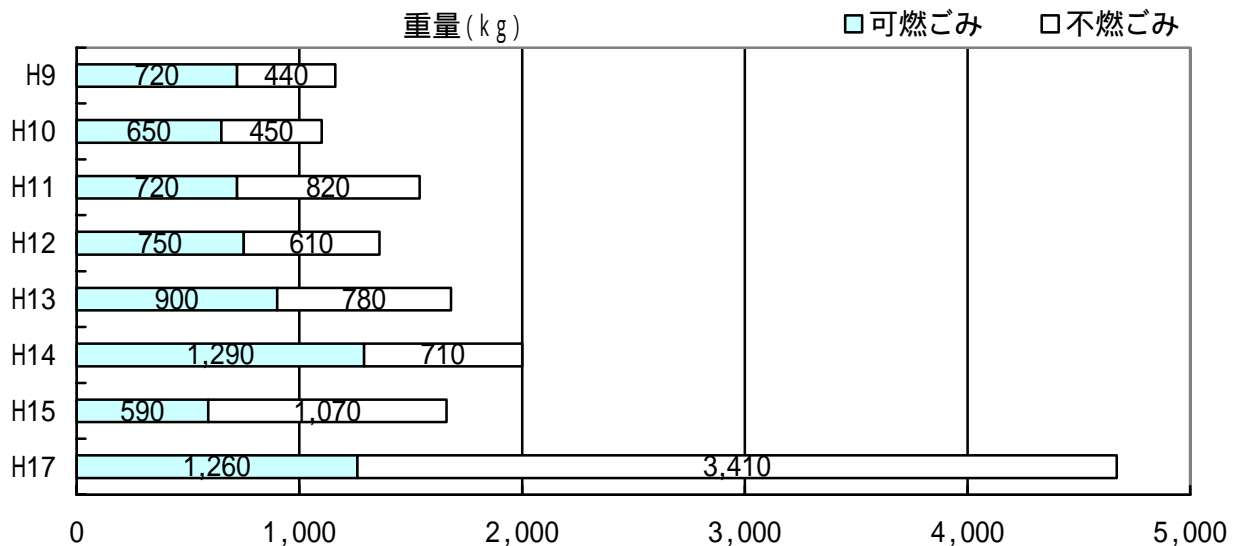
年度	実施場所
H11	桜淵公園及び周辺道路、新城文化会館周辺、県営新城総合公園周辺、豊川右岸・牟呂松原頭首工付近
H12	桜淵公園及び周辺道路、新城文化会館周辺、県営新城総合公園周辺、豊川右岸・牟呂松原頭首工付近
H13	桜淵公園及び周辺道路、県営新城総合公園周辺、豊川右岸・牟呂松原頭首工付近、東名高速道路下から静岡県境
H14	桜淵公園及び周辺道路、県営新城総合公園周辺、豊川右岸・牟呂松原頭首工付近、東名高速道路下から静岡県境
H15	桜淵公園及び周辺道路、県営新城総合公園周辺、豊川右岸・牟呂松原頭首工付近、東名高速道路下から静岡県境
H17	桜淵公園及び周辺道路、県営新城総合公園周辺、豊川右岸・牟呂松原頭首工付近、東名高速道路下から静岡県境

平成 16 年度は雨天のため中止。

新城クリーンハート・クリーンシティ作戦 参加人数と回収量の推移



新城クリーンハート・クリーンシティ作戦 ごみ回収量内訳



< しんしろクリーンアップ大作戦 >

環境を主要なテーマとする「愛・地球博」に向け、市民一人ひとりが環境美化に対する意識の向上を図るための「しんしろクリーンアップ事業」(環境課)、ふるさとのきれいな川や海を子どもたちに残すための「川と海のクリーン大作戦」(土木課)、自然公園の美化思想をより広く普及させるための「自然公園クリーンデー」(商工観光課)の3事業を合同で展開する大規模な活動として開催するようになりました。また、開催日以外でも各団体が独自に行った清掃活動も報告されています。

参加団体

市民憲章推進協議会加盟団体		
新城ライオンズクラブ	老人クラブ	総代会
新城ロータリークラブ	子ども会育成連絡協議会	ボーイスカウト
新城青年会議所	新城市消防団	ガールスカウト
P T A 連絡協議会	新城市文化協会	新城市商工会青年部
幼小中学校長会	新城市体育協会	交通安全協会
保育協会	みどりの少年団	新城市生活学校
その他の団体		
国土交通省設楽ダム工事事務所	中部電力(株)新城営業所	東海カヌークラブ
水資源開発公団豊川用水総合事業部	オーエスジー(株)新城工場	しんしろ環境あいうえお
愛知県新城設楽建設事務所	オーエスジー(株)八名工場	新城市議会
愛知県新城設楽事務所	横浜ゴム(株)新城工場	新城市役所部課長会
新城労務対策協議会	豊川上漁業協同組合	

しんしろクリーンアップ大作戦の実施状況

平成 15 年 10 月実施場所	参加人数	回 収 量		
		可燃ごみ	不燃ごみ	合 計
桜淵公園周辺	450 人	220kg	210kg	430kg
豊川右岸・牟呂松原頭首工付近	240 人	220kg	170kg	390kg
県営新城総合公園周辺	100 人	180kg	40kg	220kg
国道 301 号線静岡県境付近	80 人	200kg	560kg	760kg
合 計	870 人	820kg	980kg	1,800kg
平成 16 年 10 月実施場所	参加人数	回 収 量		
		可燃ごみ	不燃ごみ	合 計
桜淵公園周辺	450 人	130kg	210kg	340kg
豊川右岸・牟呂松原頭首工付近	500 人	510kg	340kg	850kg
県営新城総合公園周辺	145 人	90kg	60kg	150kg
国道 301 号線静岡県境付近	130 人	330kg	340kg	670kg
合 計	1,225 人	1,060kg	950kg	2,010kg
平成 17 年 1 月実施場所	参加人数	回 収 量		
		可燃ごみ	不燃ごみ	合 計
文化会館周辺	240 人	70kg	250kg	320kg
東郷中学校	270 人	180kg	180kg	360kg
国道 151 号線(杉山地内)	122 人	120kg	170kg	290kg
国道 301 号線(臼子地内)	34 人	20kg	180kg	200kg
国道 301 号線(富岡地内)	162 人	300kg	550kg	850kg
合 計	828 人	690kg	1,330kg	2,020kg

その他団体の清掃活動等の実施状況（平成 16 年度）

事業主体	実施日	参加人員	活動事業内容
SWSしんしろ	4月11日	40名	大原調整池
豊川クリーン作戦実行委員会	4月18日	17名	豊川牛淵～桜淵
新城ガールスカウト	4月25日	35名	桜淵公園付近
新城中学校	4月29日	258名	学校周辺
市川区	5月2日、10月24日	延 46名	公民館～クリーンセンター
川田区	5月9日、9月12日	延 560名	川田区内道路等
八名中学校	5月31日	263名	学校周辺、堀切川等
城北住民の会	6月13日、9月5日	-	城北公園付近
新城タバコ販売協同組合 婦人部	6月4日、8月26日 10月28日、12月9日	延 80名	文化会館周辺、桜淵公園
東新町の環境を考える会	6月13日、10月10日 2月13日	60名	東新町区内
東郷中学校	6月1日	160名	バイパス周辺
舟着小学校	10月28日、11月2日	延 157名	日吉区内豊川河川敷、通学路
東部交通安全推進協議会	11月14日	20名	東部地区主要道路
千郷中学校2年C組	11月22日	38名	田町川
中宇利区	1月9日	12名	福津地内県道区有林
石田老人クラブ	12月26日	15名	市道石田豊島線、桜淵公園
新城小学校	1月27・28日	527名	学校周辺
新城市老人クラブ	3月10日	300名	桜淵公園
石田区	3月13日	-	石田区内

<ほうらいクリーンアップ事業>

「愛・地球博」開催に向け、散乱ごみのない清潔で快適な街づくりをめざす「あいちクリーンキャンペーン」の趣旨に基づき、職員が町内4地区の道路清掃作業を行いました。

ほうらいクリーンアップ事業の実施状況

実施日	清掃箇所	配置
H15.10.11	黄柳橋～六地蔵（国道257号）	助役、総務課、議会事務局、会計課
	黄柳橋～赤引温泉（県道能登瀬新城線）	建設課、教育委員会
	湯谷園地～名号直売所（国道151号）	税務課、住民福祉課
	神戸館～池場坂峠（国道151号）	産業観光課、水道環境課
H16.10.16	大草バス停～鳳来寺バス停（県道鳳来東栄線）	総務課、議会事務局、
	黄柳橋～六地蔵（国道257号）	建設課、教育委員会
	黄柳橋～赤引温泉（県道能登瀬新城線）	税務課、住民福祉課、会計課
	神戸館～池場坂峠（国道151号）	産業観光課、水道環境課
H17.8.20	町道大代線入口～旧身平橋バス停（県道）	総務課、議会事務局、教育委員会
	旧身平橋バス停～滝上三叉路（県道）	税務課、住民福祉課、産業観光課
	町道大代線入口時 旧水産試験所 棚田サミット看板設置場所	建設課、水道環境課、会計課

その他団体の清掃活動等の実施状況（平成 16 年度）

事業主体	実施日	参加人員	事業主体	実施日	参加人員
長篠西	11 / 14	174 名	井代	毎月 1 回	64 名
本郷	11 / 14	199 名	名越	10 / 4	20 名
内金上	11 / 14	200 名	名号	10 / 24	61 名
内金下			睦平	10 / 24	28 名
玖老勢	8 / 29	326 名	細川	12 / 5	31 名
副川	8 / 29、11 / 21	65 名	巢山	9 / 30、11 / 21	43 名
門谷	10 / 31	95 名	七郷一色	7 / 4	56 名
布里	11 / 14	75 名	川合西	11 / 3	25 名
只持	8 / 29	45 名	コシ	11 / 7	26 名
塩瀬	2 / 20	8 名	池場	11 / 7	28 名
源氏	12 / 12	18 名	浅畑	10 / 31	32 名
恩原	10 / 24	24 名	東矢田	10 / 31	18 名
大輪	10 / 17	21 名	大峠	11 / 7	35 名
湯島	10 / 18	9 名	引地	9 / 19	32 名
千原田	10 / 12	24 名	湯谷	10 / 31	40 名
下町	10 / 12	28 名	ドウデイ	11 / 14	15 名
中町	11 / 21	24 名	柿平	11 / 14	14 名
丁塚	11 / 7	61 名	山中	2 / 13	9 名
四谷	8/29,11/21,11/21	40 名	中新戸	11 / 7	17 名
連合	11 /	57 名	柿本	11 / 7	26 名
海老副川	11 / 7	79 名	五反田	11 / 7	32 名
高野	9 / 17	7 名	紺東	10 / 31	36 名
阿寺大沢	10 / 24	27 名	紺西	9 / 12	31 名
竹ノ輪	9 / 20	38 名	川上	10 / 10	26 名
多利野	10 / 10	21 名	中平	10 / 10	34 名
黄柳野	11 / 21	50 名	松沢	10 / 10	25 名
蔵平	11 / 21	28 名	矢田	10 / 10	17 名
小川	10 / 31	84 名	入洞	11 / 13	19 名
栗衣	10 / 3	20 名	川売	8 / 29、9 / 22	25 名
本久	8 / 29	70 名	杉下	11 / 14	24 名
大野 1	11 / 7	38 名	新戸永寿会	9 / 20	23 名
大野 2	11 / 7	34 名	クライマーの会	11 / 3	120 名
大野 3	11 / 7	66 名	東小学校区	7 / 3	90 名
大野 5	11 / 7	30 名	合計		3,207 名

作手地区

事業主体	実施日	参加人員	活動事業内容
作手中学校整備委員会	6 月	約 200 名	国道 301 号線沿い
作手高校			清掃ボランティア活動
作手村ジュニアリーダー			清掃ボランティア活動
作手村青年団			清掃活動

クリーンキャンペーン事業

国道 301 号線沿いの待避所のポイ捨て防止のため、「花咲きラクダ」を設置
（15 年度より交付金支給）

2 不法投棄対策

< 不法投棄情報の提供に関する覚書 >

郵便局や新聞販売店の配達員が外務作業中に発見した不法投棄に、市町村が速やかに対処する不法投棄の早期発見・早期対応を目的として「廃棄物の不法投棄情報の提供に関する覚書」を締結しました。旧新城市が県内でもいち早くこの取り組みを取り入れ、その後急速に県内外に取り組みが広まりました。

「覚書」の締結状況

年月日	旧市町村名	団体名
平成 13 年 2 月 20 日	新城市	新城郵便局
平成 13 年 4 月 20 日	作手村	作手郵便局
平成 13 年 4 月 20 日	新城市	新城市新聞販売店グループ
平成 13 年 7 月 16 日	鳳来町	長篠郵便局、鳳来寺郵便局

< 行政区の協力 >



住民が設置した防護ネット（市川地内）

旧新城市は、平成 13 年度より各行政区に委嘱しています生活環境推進委員が、不法投棄の監視及び通報を行うことを職務として条例に決めました。このため、各行政区では総代及び生活環境推進委員が中心となり、市民が協力し合い、不法投棄された場所への再発防止ネットの設置や、林道に許可無く入れないように入口に門を設置するなど自分たちの地元を不法投棄から守ろうという意識が高まっています。

< 景観の劇的 Before After 事業 >

不法投棄防護ネットの設置を多用することは、本市の景観を損ねるというマイナス面もあることから、新たな試みとして景観の劇的 Before After 事業を行いました。

この事業は、景観を損ねずに不法投棄をなくすことを目的として、「不法投棄された場所」(Before)を「不法投棄させない場所」(After)へ転換させるものです。

平成 17 年度は、モデル事業として、不法投棄された場所を市民の作品展示場所にすることとしました。作品の制作は、材料を市有林で間伐したスギ 3 本（長さ約 5m × 直径約 25 cm）に設定し、市内でも環境活動や環境学習を盛んに行っている舟着小学校に依頼しました。



作品は、間伐材に彫刻・彩色を施したトーテムポール3本で、5年生が1学期の総合学習などの授業時間に作成しました。

作品展示場所は、舟着小学校の地元の方の民有地（塩沢地内）で、事業の概要を説明したところ快く土地使用の承諾をいただきました。

作品の展示は、夏休み中だったこともあり、トーテムポールを作成した生徒や先生、地元総代の協力のもとに設置しました。

Before（整備前）



After（整備後）



3 市民環境活動・環境学習・環境情報

本市は、地球規模で深刻化する環境問題に対し、身近なところで着実に取り組んでいる市民及び市民活動団体の活動を支援するとともに、環境活動に関する学習会の開催や情報提供をすることにより、市民や市民活動団体のネットワークの充実を図り、子どもから高齢者に至るまで環境に親しみ考える仕組みづくりを行い、市全体の取り組みにつながるよう推進しています。

< 市民環境活動 >

【市民環境会議】(新城地区)

市民環境会議は、「新城市都市環境基本計画」に基づき、一般公募の市民、環境関連活動団体の代表者で構成され、1998年12月18日に発足しました。平成17年3月末現在では、市民14名、環境関連活動団体の代表者4名、事業所から4名の計22名となりました。

市民環境会議開催状況 平成16年度

回数及び開催日	議 題
第1回 7月27日	1. 新城市のISO14001の取り組みにおける著しい環境側面について 2. しんしろアジェンダ21の策定について
第2回 11月2日	1. 新城市のISO14001の取り組みにおける著しい環境側面について 2. 地球温暖化防止対策について 3. 環境首都コンテストについて

【暮らしと環境を考える会 りさいくる21】(新城地区)

平成4年度に市の公募により参加した「しんしろ女性21会議」メンバーのうち、暮らしと環境を考える部会が主体となり立ち上げたものです。

主な活動は、新城文化会館はなのき広場において3ヶ月に1回のペースで「市民リサイクルフリーマーケット」を開催しています。「市民リサイクルフリーマーケット」は、ごみの減量と資源リサイクルを呼びかけ、循環型社会の実現のための輪を広げるための活動として始まりました。

また、フリーマーケットと同時に日本救援衣料センターの行う自然災害や貧困などで苦しむ人々のための救援衣料回収活動に協力し、家庭から持ち込まれる古着の受付を行っています。毎年2トントラック2杯分程度の古着を活動の中継先の豊橋市まで搬送しています。



リサイクルフリーマーケット

【しんしろ環境あいうえお会議】(新城地区)

しんしろ環境あいうえお会議は、平成7年9月に環境問題に関心のある市民が集まり結成されました。地球温暖化対策、循環型社会の形成のために、市民の視点から家庭においてできることなどを掲載した独自の情報誌「えこ広場」の作成や定期的に会議を開催し、環境活動の輪を広げるために様々な取り組みを行っています。

しんしろ環境あいうえお会議活動状況 平成16年度

回数及び開催日	議 題
第1回 4月22日	情報誌の編集について(ペットボトル処理)
第2回 5月27日	ペットボトル処理について(処理施設の視察)
第3回 6月24日	ペットボトル処理について
第4回 7月22日	情報誌の編集について(ごみの減量)
第5回 8月26日	情報誌の編集について(校正作業)
第6回 9月30日	情報誌の編集について(生ごみ処理機による堆肥化)
第7回 10月28日	情報誌の編集について(可燃ごみ施設、コミュニケーション)
第8回 11月25日	情報誌の編集について(校正作業)
第9回 12月16日	情報誌の編集について(紙リサイクルの現状)
第10回 1月26日	情報誌の編集について(地球温暖化、紙リサイクル)
第11回 2月23日	情報誌の編集について(地球温暖化対策、ごみの分別)
第12回 3月24日	情報誌の編集について(校正作業)

【山吉田みどりの少年団】(鳳来地区)

山吉田みどりの少年団は、山吉田財産区有林での植林や間伐材を利用した森林学習活動などを行っています。

山吉田みどりの少年団活動状況(平成16年度)

月	活動内容	人数	実施場所
8月	みどりの学習教室	38名	昭和の森
12月	地域の森作り	9名	山吉田財産区有林
2月	県交歓会	4名	自然体験の森(岡崎市)
3月	植林及び間伐材を利用した椅子作り	38名	山吉田財産区有林

【ごみ減量化推進委員会】(作手地区)

ごみ減量化推進委員会は、環境問題に関心のある市民が集まり、平成10年度に結成されました。ごみ減量化の先進地等の視察や会議を開催し、ごみについて又は環境関係の諸問題についての検討を行っています。

【親子わいわいクラブ】(作手地区)

平成13年度に愛知東農協の声かけにより、子育てに関する情報交換や勉強会を通じて輪を広げようという取り組みがきっかけとなり始まりました。

ごみの出し方の講習会(約20名)

< 環境学習 >

【親と子の「走る環境教室」】(新城地区)

親と子の「走る環境教室」は、夏休み中の市内の小学生とその保護者を対象に参加者を募集し、マイクロバスなどを使って、市内外のリサイクル工場や環境関連施設の見学や勉強会を通じ、環境問題に対して理解を深め、その対策について親子で考えるものです。

平成 17 年度は、「日本の原風景を学ぶ」をテーマとして、旧鳳来町の「四谷千枚田」「川売梅の里」設楽町「段戸きららの森」で、農業を営むと同時に台風や大雨などの災害防止機能、保水機能など自然の地形を生かし、自然と共生していく環境について、日本の今と昔の生活を比較しながら学習し、実際に森の中を散策するなど貴重な体験ができました。

親と子の「走る環境教室」実施状況

年度	見学先	年度	見学先
H8	石塚硝子(株)(岩倉市) 麒麟ビール(西春日井郡新川町)	H13	県下水道科学館(平和町) 自然共生研究センター(岐阜県川島町)
H9	東邦ガス(東海市) 中京コカコーラ(東海市)	H14	王子製紙株式会社春日井工場 愛知県環境調査センター(名古屋市)
H10	へきなん タントピア(碧南市) 高浜衛生(株)(高浜市)	H15	トヨタ「里山学習館エコの森ハウス」 (豊田市)
H11	石塚硝子(株)(岩倉市) 麒麟ビール(西春日井郡新川町)	H16	愛知県下水道科学館(平和町) 愛知県環境調査センター(名古屋市)
H12	西尾いきものふれあいの里(西尾市) 日進市中央環境センター	H17	川売・梅の里、四谷・千枚田 段戸・きららの森(設楽町)

【地元学講座】(新城地区)

身近なところから一步一步確実に環境の取り組みを進めるため、自分たちの周りの環境の変化や新たな発見などを探し、地域のあるもの、地域のよいものを今後の地域づくりに結びつけるために開催しました。

地元学講座の開催状況

回数及び年月日	テーマ
第 1 回 平成 17 年 1 月 16 日	テーマ「地元学とは」 ・小畑・中宇利地区であるもの探し
第 2 回 平成 17 年 2 月 13 日	テーマ「地元学の目的と手法」 ・小畑・中宇利地区であるもの探し、絵地図作成
第 3 回 平成 17 年 3 月 27 日	テーマ「環境に配慮した魅力あるしんしろづくり」 ・絵地図を基に今後の課題を話し合う。

【環境活動につながる学習会】(新城地区)

人と人とのつながり、団体と団体の協働など環境活動における市民の役割の大切さを考え、これからの環境の取り組みを一步一步確実に進めるために学習会として開催しました。

環境活動につながる学習会の開催状況

回数	テーマ	講師
第1回	環境活動と市民力・人間力 (平成17年1月29日)	谷岡郁子氏 (中京女子大学学長)
第2回	環境に配慮した魅力ある地域づくりを にんう市民力(平成17年2月26日)	吉本哲郎氏 (熊本県水俣市役所生涯学習課長)

【鳳来寺山自然科学博物館による環境学習会】(鳳来地区)

鳳来寺山自然科学博物館は、学芸員による自然生態系調査やさまざまな環境学習会や講座を開催しています。

展示活動

常設展示 鳳来寺山の地質断面図と岩石の露出展示(展示館1階)
きのこ展示コーナー(展示館2階)

特別展示

(平成16年度)

展示会名	内容	期間	見学者数
豊川の流域から見た鳳来の自然	寒狭川、宇連川、黄柳川などの豊川流域に見られる自然の紹介	7月18日 ~8月31日	2,697人
きのこ展	鳳来を中心とした奥三河地方で見られる野性きのこの展示ときのこの役割について紹介	9月26日 ~11月28日	2,916人

(平成17年度)

展示会名	内容	期間	見学者数
奥三河の自然博物展	鳳来を中心とした奥三河地方の自然の紹介	3月25日 ~9月25日	5,814人
きのこ展	鳳来を中心とした奥三河地方で見られる野性きのこの展示ときのこの役割について紹介	10月1日 ~10月23日	610人

講座

子ども自然講座

(平成16年度)

講座名	実施日	参加人数	分野
サンポーニア(竹笛)をつくろう	7月24日	12名	植物
川の魚を調べよう	7月31日	16名	動物
石器を作ろう	11月27日	12名	地学

(平成17年度)

講座名	実施日	参加人数	分野
カタツムリとあそぼう	7月24日	4名	動物
石器づくりと原石さがし	8月20日	32名	地学
摘み草あそび	8月27日	7名	植物

教師向け自然と博物館利用講座

(平成16年度)

講座名	実施日	参加人数	分野
鳳来寺山付近の地形と岩石	7月28日	13名	地学
鳳来寺の森で植物群落を測る	8月2日	8名	植物
昆虫の世界	8月25日	8名	動物

(平成17年度)

講座名	実施日	参加人数	分野
骨や歯から進化を学ぶ	7月23日	5名	地学
魚のしらべ方	8月6日	6名	動物
鳳来寺参道沿いの植物	8月23日	14名	植物

【つくで自然探訪 自然観察会】(作手地区)

つくで自然探訪は、もともと地元の講師による自然観察会を行う「作手自然愛好会」取り組みが広がっていったものです。平成14年度から、環境省の「全国重要湿地500」にも選定されている作手の湿原の観察会を中心として、本格的にシリーズ化して開催されています。

つくで自然探訪 自然観察会実施状況

(平成16年度)

回数	実施日	テーマ(講師)
第1回	5月9日	三河川合乳岩観察会
第2回	6月13日	城山と「創造の森」で身近な自然を観察しよう
第3回	7月31日	夏の星空観察会(夏の大三角とサソリ座を見よう)
第4回	8月8日	岩波川の魚と水生昆虫観察会
第5回	9月19日	長ノ山湿原を見よう(昆虫編)
第6回	10月3日	森のキノコ教室 中河内地内 (講師: 鳳来寺山自然科学博物館 加藤貞亨氏)
第7回	11月21日	「巴川の紅葉」と河畔植物(ナメラダイモンジソウ群生地ほか)
第8回	2月25日	冬の星空観察会(冬の大三角形とオリオン座「M42」を観る)

(平成17年度)

回数	実施日	テーマ(講師)
第1回	4月30日	三河川合乳岩(特異な景観と植物)観察会
第2回	5月22日	長ノ山から善夫まで生命感あふれる里山「カイリケ」を歩く
第3回	7月3日	新城の蛇紋岩地帯(中宇利の丸山から大原調整池)で 特異な植物を観察する
第4回	8月7日	菅沼川の魚と水生昆虫観察会 マゴタロウムシはいるかな?
第5回	11月6日	秋のせっごく峠を歩こう ゆったりと、秋の自然に触れよう!!

< 環境情報 >

【広報しんしろ】

えこにゆうすは、平成 11 年度、毎月発行する「広報しんしろ」に「環境シリーズ」として、主に地球環境問題に関する情報を 1 年間 12 回にわたり行い、その後、地球環境問題だけでなく、身近な環境問題、市が行う環境行事、使わなくなったものの再使用を目的としたリサイクル情報コーナー、フリーマーケットの開催日、月ごとのごみ・資源の排出量等の市民への情報提供の場「えこにゆうす」として、2000 年 4 月号（平成 12 年度）から行っています。

また、新都市の自然環境についてのわかりやすい情報や解説を、専門知識を持った先生方に執筆していただいた「しんしろの自然～ホントのはなし～」をシリーズ化しています。

平成 16 年度の「えこにゆうす」

月	内 容
5 月号	分別してごみ減量！紙類編 犬の「ふん」がない道はきれいで気持ちがいいですね
6 月号	6 月 5 日は「環境の日」6 月は「環境月間」です しんしろクリーンハート・クリーンシティ作戦を実施 生ごみ処理器を購入すると補助金が出ます
7 月号	分別してごみ減量！紙類編 Vol2 第 43 回フリーマーケット開催
8 月号	平成 15 年度 容器包装のリサイクル実績 容器包装リサイクル法に基づいた資源回収 意外とかかる処理費用 「こどもエコクラブ」ってなあに 親と子の「走る環境教室」を開催します
9 月号	自作パソコンも PC リサイクル ハチに関する苦情が増えています 生ごみ処理器の購入に補助金が出ます
10 月号	10 月はクリーン排水推進月間です 粗大ごみ処理券は次のお店で購入できます 第 44 回フリーマーケットを開催します
11 月号	環境ポスター入賞者 犬の登録と狂犬病予防注射 予防はできるが治療はできない、発病すれば死に至る狂犬病 新都市ドッグランキング 自動車リサイクル法がスタートします
12 月号	きれいな地球で遊びたいね 「新都市の環境」を作成しました
1 月号	環境課に寄せられた苦情件数 「新都市の環境」を作成しました 第 45 回フリーマーケットを開催します
2 月号	しんしろクリーンアップ作戦を実施します 野焼きは禁止されています 生ごみ処理器を購入すると補助金が出ます
3 月号	不法投棄防止対策 中宇利区民による不法投棄撤去作業

平成 17 年度の「えこにゆうす」

月	内 容
4月号	毎月第4日曜日最終処分場搬入することができるようになります 第46回フリーマーケットを開催します 犬の登録と狂犬病予防集合注射を行います
5月号	こどもエコクラブ会員募集中 悪質な回収業者にご注意ください 生ごみ処理器の購入により補助金が出ます
6月号	6月5日は「環境の日」6月は「環境月間」です しんしろクリーンハート・クリーンシティ作戦を実施 太陽光発電システム設置補助金が出ます 「市民環境会議」メンバーを募集します 「新城市環境審議会委員」を募集します
7月号	市民参加の生態系調査のまち～しんしろ～ 「外来種」の調査を行います やめよう犬の放し飼い 考えよう他人の迷惑
8月号	わたしたちの地球温暖化対策～温室効果ガスの削減～ 親と子の「走る環境教室」を開催します
9月号	地球環境問題について考えてください

しんしろの自然～ホントのはなし～

月	内 容
平成 16 年 8 月	「野鳥観察のおもしろさ」その一「好きなのは野鳥」 皿井 信（東三河野鳥同好会会長）
平成 16 年 9 月	「野鳥観察のおもしろさ」その二「私の帰巢本能」 皿井 信（東三河野鳥同好会会長）
平成 16 年 10 月	市内を流れる豊川で日本の地質のエッセンスがみられます 上・追分から有海まで 横山 良哲（鳳来町自然科学博物館館長）
平成 16 年 11 月	市内を流れる豊川で日本の地質のエッセンスがみられます 下・有海から海倉淵へ 横山 良哲（鳳来町自然科学博物館館長）
平成 16 年 12 月	「植物雑感」その1・野外植物について 石川 静雄（愛知県植物誌調査会）
平成 17 年 1 月	「植物雑感」その2・大切にしたい植生 石川 静雄（愛知県植物誌調査会）
平成 17 年 3 月	しんしろ界隈の虫の話 「タガメ」 長谷川 道明（豊橋市自然史博物館学芸員）
平成 17 年 4 月	しんしろ界隈の虫の話 「まぼろしのオオクロナガオサムシ」 長谷川 道明（豊橋市自然史博物館学芸員）
平成 17 年 5 月	「新城市のフィールドは多様で多彩な舞台装置」その1 藤田 佳久（愛知大学文学部教授）
平成 17 年 6 月	「新城市のフィールドは多様で多彩な舞台装置」その2 藤田 佳久（愛知大学文学部教授）
平成 17 年 7 月	江戸時代の山々はハゲ山だった 藤田 佳久（愛知大学文学部教授）

【インターネット】

インターネットの普及により、本市のホームページもさらに内容を充実させてよりわかりやすく新しい情報を掲載していきたいと考えています。また、携帯電話による環境情報の提供も充実させていかなければなりません。

本市ホームページの環境情報内容一覧（平成 17 年 10 月合併時）

旧新城市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新着情報 しんしろエコショップ認定販売店募集 不法投棄対策！景観の劇的ビフォーアフター ・ 外来種の調査を行います ・ 新城市の環境（平成 16 年 10 月） ・ 収集日程（地区別表） ・ ごみの分別 どうするの？ごみ分別 ごみの分別表 ・ 新城市の資源とごみの排出量 平成 13 年度実績～ ・ 住宅用太陽光発電システムの設置に補助金がでます ・ ムササビのエリアマップを作成しました ・ 共生を考える（広報特集号） 動物と楽しく快適に暮らすために！ ・ 循環型社会への挑戦
旧鳳来町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新着情報 パソコンメーカーによる家庭系パソコンの回収リサイクルがはじまります（H15.8.20） 「廃棄物の適正な処理に関する条例」が平成 15 年 10 月 1 日から施行されます（H15.9.5） 10 月は「クリーン排水推進月間」です。（H15.9.18） 平成 16 年度「ごみゼロ推進店」の募集（H16.1.29） 二輪車リサイクルが始まります。（H16.8.20） 自動車リサイクル法が始まります。（H16.12.28） ・ ごみ・リサイクル ごみの分け方・出し方 分別辞典 Q & A 収集日程表 ・ 犬の登録・注射
旧作手村	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミの収集 ・ 生ゴミ処理器等設置補助制度 ・ し尿の収集 ・ 生活排水対策

4 生態系調査事業

旧新城市の取り組み

多様な生物が生息できる自然生態系を保全・改善していくことは、人間が人間らしく生きていくためにも必要です。こうした生物多様性の観点から、自然環境と野生動植物の生息・生育状況の実態を明らかにすることにより、本市における絶滅のおそれのある野生生物の「レッドリスト」「新城版レッドデータブック」として取りまとめ、今後の野生動植物の保護を進めていくための基礎的な資料とするとともに、市民の野生動植物への関心を高め、自然環境保全への配慮が促進されることを目的としています。

【取り組みの概要】

調査は、国及び県のレッドデータブック記載種を中心として、本市に特徴的な自然環境、野生動植物の生息・生育状況の把握を既存の資料による文献調査と現地調査で行っています。専門家で構成する「生態系調査検討会」を設置し、調査検討を進めるとともに、自然環境に対する市民の関心を高めるため、市民に協力を呼びかける市民参加型の調査を実施しました。

平成 15 年 3 月には「しんしろの自然 - 生態系調査中間報告書 - 」としてまとめました。平成 16 年度は、本市の日本古来の在来種の生態系や農林水産業などへの被害を防止する目的で制定された外来生物法の施行に合わせ、市内の外来種の生息状況調査を行いました。

【新城市生態系調査検討会】(平成 17 年 10 月 1 日現在)

所 属	氏 名	分 野
愛知大学文学部地理学教授	藤田 佳久	地理学(農山村・林野の研究)
鳳来町自然科学博物館館長	横山 良哲	地形・地質
豊橋市自然史博物館学芸員	長谷川 道明	昆虫
東三河野鳥同好会会長	皿井 信	野鳥
愛知県植物誌調査会	石川 静雄	植物
鳳来町自然科学博物館学芸員	加藤 貞亨	菌類

【生態系調査状況】

年度	調 査 名	調 査 概 要
H16	外来種の生息状況調査 生態系調査検討会 新城市自然生態系調査員制度	市民からの生息情報をもとに調査を実施。8 か所で 5 種(ブラックバス、ミシシippアカミガメ、アメリカザリガニ、ブルーギル、ハクビシン) 10 件を確認。 (第 12 回~第 14 回) 公募により 26 名の登録。92 件の情報提供。
H17	外来種の生息状況調査 (ブラックバス、ブルーギルを 重点的に調査) 生態系調査検討会 新城市自然生態系調査員制度	市民からの生息情報をもとに調査を実施。ブラックバス、ブルーギルは 4 か所で生息を確認。 (その他の情報としては 4 件) (第 15 回~第 17 回) 登録数 27 名。9 月末までに 102 件の情報提供。

【外来種生息状況調査により発見された生物】



ブラックバス



ミシシippアカミミガメ

【市民環境講座】



平成 11 年度より取り組みを開始した生態系調査事業の生息状況調査と平行し、本市の自然環境の保全やその取り組みの普及啓発に努めることを目的として、市民環境講座を開催しています。

平成 16 年度

回数	テーマ	講師
第 1 回	野鳥から見たしんしろの自然 (平成 16 年 12 月 10 日)	皿井 信氏 ・東三河や長同好会会長 ・新城市生態系調査検討会委員
第 2 回	しんしろの豊かな大地を探る (平成 17 年 1 月 12 日)	横山良哲氏 ・鳳来寺山自然科学博物館館長 ・新城市生態系調査検討会委員
第 3 回	雨生山における早春の植物 (平成 17 年 2 月 19 日)	石川静雄氏 ・愛知県植物誌調査会 ・新城市生態系調査検討会委員

平成 17 年度

回数	テーマ	講師
第 1 回	豊川流域の霞提とはげ山 (平成 17 年 9 月 25 日)	藤田佳久氏 ・愛知大学文学部地理学教授 ・新城市生態系調査検討会委員
第 2 回	きのご観察会 (平成 17 年 10 月 22 日)	加藤貞亨氏 ・鳳来寺山自然科学博物館学芸員 ・新城市生態系調査検討会委員

5 森林総合産業の創出

平成 13 年度、新城市の木質バイオマス利用の取り組みを始め、翌年度「新城市地域新エネルギービジョン」を策定、平成 15 年度にビジョンの中心となる木質バイオマス利用の事業化計画調査を実施し調査報告書として取りまとめました。

これらの経緯を踏まえ、平成 16 年度に「地域再生計画・森林総合産業の創出」を策定し認定を受けました。

【新城市地域新エネルギービジョン】

化石資源の枯渇や地球の温暖化など地球規模の環境問題を踏まえ、これまでの省エネルギーの取り組みを一層充実するとともに、自然の恵み・地域に潜在する豊富な自然資源を最大限に活用する新しいエネルギー利用のあり方を確立し、同時に地域環境の改善・向上と地域経済の再生・活性化を図ることを目的として策定。

新エネルギー利用の方向性

安全で安定した自立・循環型の地域社会の形成

地域環境の保全・改善と地域経済の活性化に資するエネルギー利用の推進
家づくり・まちづくりの段階からの新エネルギー利用基盤の整備

導入プロジェクト

供給サイドのプロジェクト	需要サイドのプロジェクト
木質バイオマス資源化センター	新城広域クリーンセンター余熱利用施設
木質バイオマス・コジェネプラント	公共施設への新エネルギー施設の先導的導入
稲わら・籾殻炭化発電等施設	太陽光発電施設等導入促進制度
太陽光・太陽熱市民発電所	「エコカー」導入

ビジョンによる実現目標 ... 2010 年の新エネルギー利用割合を 4.9%

【木質バイオマス利用事業化調査】

新城市地域新エネルギービジョンのリーディングプロジェクト - 「木質バイオマス資源化センター」「木質バイオマス・コジェネプラント」 - に「小規模な木質バイオマス発電施設」を加えた 3 つの施設の事業可能性の検証のための調査。

調査の基本

地域資源を活用したカーボンニュートラルの仕組みづくり	化石資源の枯渇を踏まえ、環境にやさしく再生可能な自然資源である木質バイオマスの利用可能量を調査・検討し、森林の有効利用による大気中の二酸化炭素を増加させないカーボンニュートラルを基調とした仕組みづくり。
流域広域圏における位置づけを踏まえた森づくり	東三河の広域環境軸である豊川の上下流の中間、都市部と山間部の結節点の位置づけを踏まえつつ、森林環境の保全・改善と木質バイオマスの有効利用を図る。
環境原則に基づく持続可能な社会づくり	森林は地球環境・地域環境の重要な要素、環境は公共財であることから、取り組みのうち森林の適正管理にかかわる部分の財源は公的負担を想定し、木質バイオマス利用の推進も公共性の高いプロジェクトとして推進する。

調査内容

委員会・検討会等

委員会・検討会名	回数
新城市・鳳来町木質バイオマス利用事業化調査委員会	6回
木質バイオマス利用事業化調査担当者検討会（新城市・鳳来町職員）	4回
木質バイオマス利用市町村連絡会（東三河17市町村）	3回
新城製材協同組合・鳳来町製材協同組合との話し合い	8回
三河材流通加工事業協同組合との話し合い	7回
湯谷温泉旅館関係者との話し合い	4回

製材所アンケート ... 32社を対象。補足ヒアリングを兼ねて直接回収。

木質バイオマス資源量の把握

段階	把握する項目
第1段階	現状の木質系廃棄物（木材製品副産物）の量
第2段階	林地残材の量
第3段階	持続可能な林業をめざすことによる木質バイオマス資源の収穫量

木質バイオマスのエネルギー変換に関する調査

木質バイオマス資源を原料にしたエネルギー変換技術「直接燃焼」「熱化学的変換」「生物化学的変換」「その他の変換」のうち、わが国において利用が容易かつ経済的で実用化事例のある「直接燃焼」「熱化学的変換」について調査。

木質バイオマス利用施設の調査

施設	調査項目
木質バイオマス資源化センター	地域の木材が集まる三河材流通加工センター内およびその周辺を調査。
木質バイオマス・コージェネプラント	湯谷温泉の温泉施設の追い焚き燃料を化石資源から木質バイオマスへの転換可能性調査。
小規模な木質バイオマス発電施設	木質バイオマス資源化センターおよび木質バイオマス・コージェネプラントとセットで調査。

環境価値と公共性を考慮した経済性評価と事業主体の検討

エネルギー問題・環境問題を踏まえ、事業採算や運営も含めた実現可能性（事業化）の判断は、森林の公共的側面に配慮し＜環境価値＞に軸足を置いて検討。

【新城市・鳳来町木質バイオマス利用事業化調査報告書】

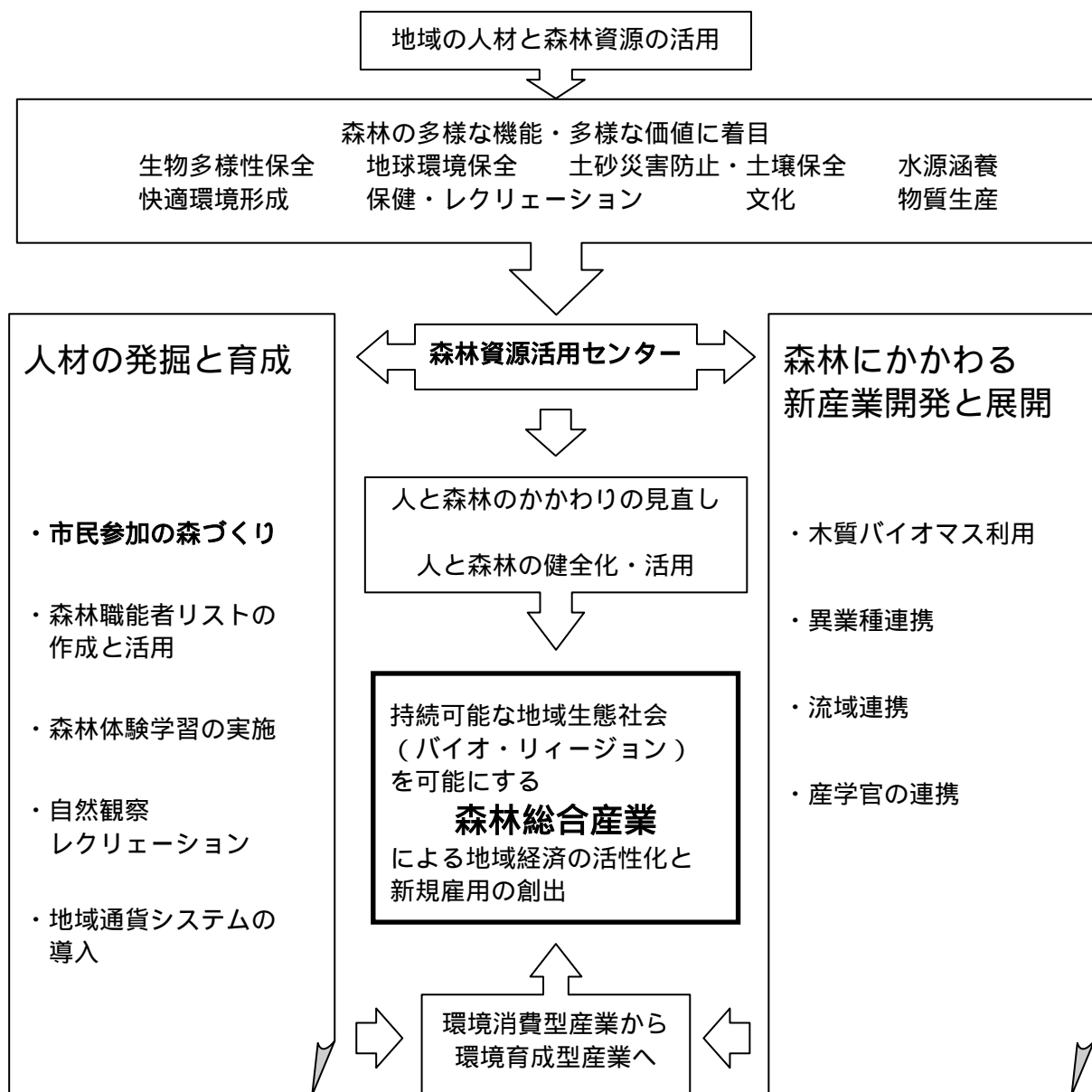
平成16年2月、木質バイオマス利用の事業化計画調査や検討会の結果に、関連団体との話し合いや製材所アンケートの結果を反映させて「新城市・鳳来町木質バイオマス利用事業化調査報告書」を取りまとめました。

調査により、木質バイオマス利用は、森林へのかかわりと木材の生産・流通・加工システムの変革を伴うものであり、エネルギーや環境、観光、教育などにかかわるさまざまな組織や企業との連携が求められることから、これらを踏まえ、森林環境を保全・育成しながら森林資源を活用する持続可能なシステムづくりが必要であることがわかりました。

< 地域再生計画・森林総合産業の創出 >

豊かな地域資源である森林や木材にかかわる暮らしと経済活動を林業・製材業に限定せず、森林の持つ多様な機能（生物多様性保全、地球環境保全、土砂災害防止・土壌保全、水源涵養など）と多様な価値（快適環境形成、保健・レクリエーション、文化、物質生産など）に着目し、森林管理、森林教育、新エネルギー供給、自然循環型農業、滞在体験型観光など新規事業化を促進するとともに森林資源を活用する能力を持った人材の育成により雇用機会を増やすなど産業活動の活発化を図るものです。

【森林総合産業の創出・概念図】



【地域再生の取り組みを進めようとする期間】

取り組みの段階	計画の内容
第1段階（2004.6～2005.3）	森林総合産業の足がかりを確立
第2段階（2005.4～2008.3）	取り組みの全体的な仕組みを確立
第3段階（2008.4～2012.3）	持続可能社会システムの一環として森林総合産業を確立

【地域再生計画により講じようとする支援措置の番号及び名称】

番号	支援措置	関係省庁
10901	地域再生雇用支援ネットワーク事業の集中化	厚生労働省
11203	地域再生支援のための「特定地域プロジェクトチーム」の設置	国土交通省
230003	バイオマスタウン（仮称）の実現に向けた取り組み	農林水産省

【森林資源活用研究会】

平成16年3月、これまでの取り組みにより把握した問題点や課題に対し、多面的かつ専門的な観点からアプローチし、森林資源の健全化と木質バイオマス利用にかかわる技術や仕組みについて調査・研究を進めるため「森林資源活用研究会」を設置しました。

森林資源活用研究会名簿（平成17年10月1日現在）

所 属		役 職	氏 名
専 門 委 員	岐阜県立森林文化アカデミー	学長	熊崎 實
	豊橋技術科学大学工学部エコロジー工学系	教授	北田 敏廣
	豊橋技術科学大学工学部エコロジー工学系	助教授	成瀬 一郎
	(株)富村環境事務所	所長	富村 周平
	(株)森のエネルギー研究所	代表取締役	大場 龍夫
	愛知県企画振興部地域振興課	主査	佐久間 啓彰
庁内委員7名、事務局5名			

森林資源活用研究会開催状況

開催日	計画の内容
第1回 （平成16年3月17日）	テーマ設定について 進め方について 研究会への参加を呼びかける事業者・団体等について
第2回 （平成16年8月27日）	先端技術を活用した農林水産省研究高度化事業について 地域再生計画「森林総合産業の創出」について 委員からの意見
第3回 （平成16年10月25日）	木質バイオマス資源の可採量と活用策の調査について
第4回 （平成16年12月9日）	木質バイオマス利用を含む森林資源活用促進システムとプログラムについて 新都市のバイオマスタウン構想について
第5回 （平成17年3月3日）	森林資源活用研究会に関わる全体の進捗状況の確認と今後の課題について 新都市のバイオマスタウン構想について
第6回 （平成17年9月5日）	地域再生計画・森林総合産業の創出の課題と実現方策について 未利用間伐材・廃木材の有効活用事業について バイオマスタウン構想について

【小型木ガス発電システムの導入】

導入した小型木ガス発電システムは、木材チップを利用した発電出力 1 キロワット強のデモンストレーションシステムです。木質バイオマス利用の事業化に向け、市民をはじめより多くの人に木質バイオマス利用の取り組みを普及・啓発し、また、環境教育・学習用に活用します。

小型木ガス発電システムの主要構成

構 成	仕 様
小型木材ガス化炉	燃料 ... 木質チップ（含水率 30%以下） 燃料消費量 ... 1.5 kg / h（連続運転時） 炉タイプ ... ダウンドラフト 流体名 ... 空気・可燃性ガス 常用圧力 ... kg / cm ² G-20 mm 常用温度 ... 常温～1,300
灰セパレータ	流体名 ... 可燃性ガス 常用温度 ... ～450
ガスクーラー	流体名 ... 水・可燃性ガス 常用温度 ... ～250
ガスフィルター	流体名 ... 可燃性ガス 常用温度 ... ～40
押込送風機	最大風量 ... 1.6m ³ / 分
誘引送風機	最大風量 ... 3.5m ³ / 分（50Hz）、4.0m ³ / 分（60Hz）
発電機	型 ... 小型ガソリンタイプ 出力 ... 1.0kW（木ガス使用時） 2.2kW（ガソリン使用時）



木材ガス化発電システムの流れ

- (1) 燃料投入口から木材チップを投入。
- (2) 着火口より火を入れて点火。
- (3) 送風により炉内で燃焼開始。
- (4) 炉内温度上昇に伴いガス発生。
- (5) 冷却装置、フィルターを通してガスを清浄化。
- (6) 発電機にガソリンでなくガスを送り込む。
- (7) ガスで回った発電機が電気を起こす。

6 ISO14001 の取り組み

< 新城市環境マネジメントシステム >

ISO14001 の取り組みは、『新城市都市環境基本計画』推進の中心的役割をになうもので、環境の保全と改善、よりよい環境の創造に向け、まずは行政が率先して行動するということから取り組みを開始しました。

平成 12 年 11 月 1 日にシステムの運用を開始し「環境方針」と「新城市環境マネジメントシステム全体の環境目的・目標、プログラム」による取り組みを行っていますが、平成 13 年 2 月 28 日の認証取得以降、内部環境監査や進行管理の徹底などにより、11 回の環境マネジメントシステムの見直しを行い、平成 16 年 2 月に認証取得後初めての更新審査を受け、登録更新しています。

環 境 方 針

新城市は、深刻化している地球環境問題を踏まえ「地球規模で考え、地域で行動する」ことを基本に、環境負荷の軽減と持続可能な循環型社会の確立をめざします。

このため、地域の総合的行政サービスの提供者として行っている業務が生活・自然・地球環境におよぼす影響を的確にとらえ、適切な対策を進めます。それとともに、関連する法規制等の遵守と環境汚染の予防に努めます。さらに、地域環境問題のコーディネーターとしての責任を自覚し、その役割を積極的に果たします。

具体的には『新城市都市環境基本計画』の望ましい環境像「人と地球を結ぶ環境文化都市しんしろ」を実現するよう目的・目標を定め、その実現プログラムと見直しのシステムを確立します。そして、市民、市民団体及び事業者等との連携を大切にしながら継続的改善に努めるとともに、毎年その見直しを行います。

(取り組みの基本)

- (1) 多様な生態系と共生するまちづくり
自然および自然生態系の保全と改善
公共施設等の環境共生型整備
- (2) 安全で快適なまちづくり
有害物質の排出抑制
公害未然防止の促進
- (3) 環境負荷の少ない自立・循環型のまちづくり
省エネルギーの推進
資源リサイクルの推進
- (4) 地球環境保全に貢献するまちづくり
環境学習の仕組みと場づくり
環境学習の推進
- (5) よりよい環境へ市民みんなで取り組むまちづくり
よりよい環境への取り組み支援
環境情報の提供

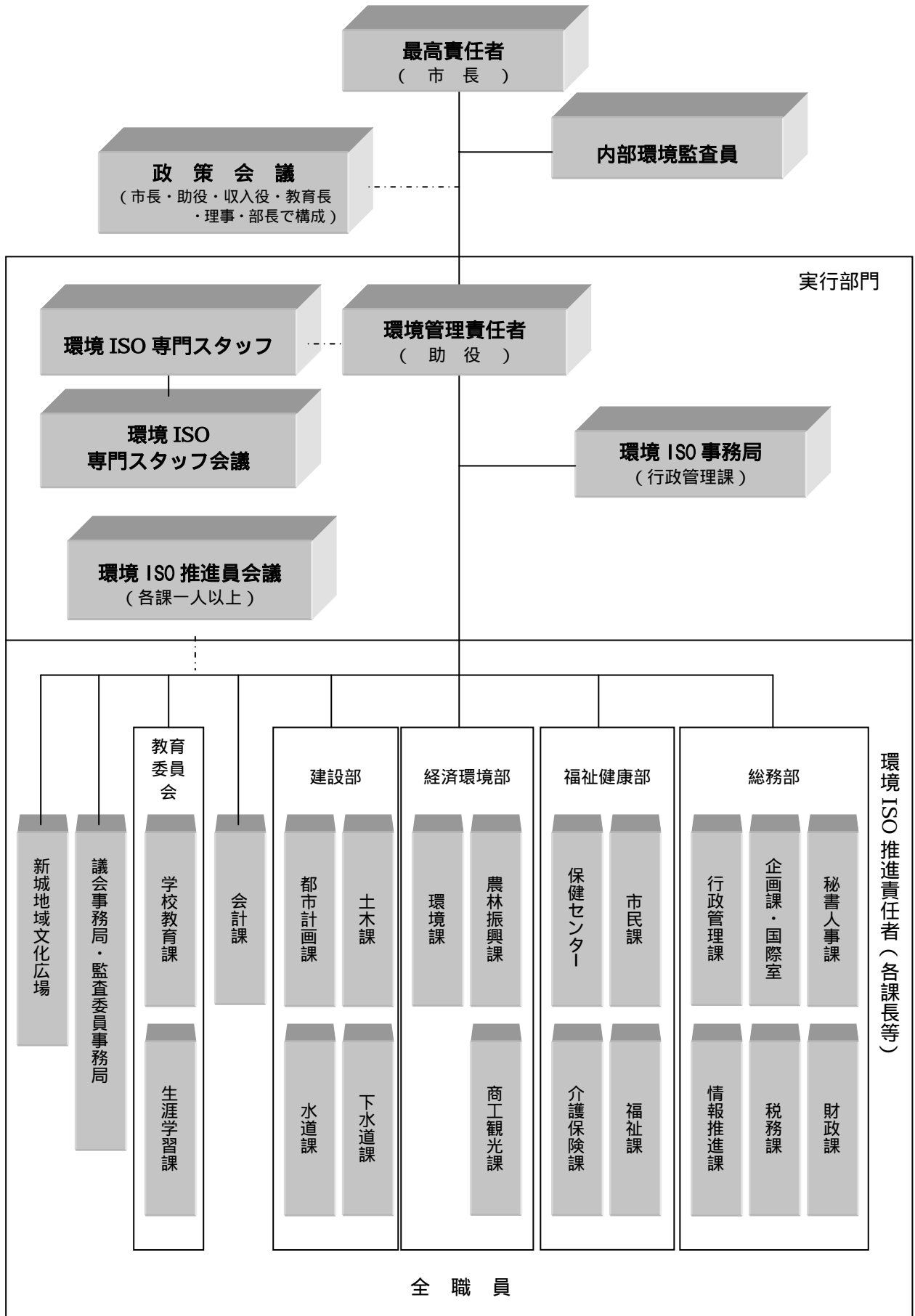
この環境方針を確実に実行し、維持するよう文書化し、全職員に周知するとともに、効果的な研修の実施によりシステムの改善と職員資質の向上に努めます。

2000年 9月 1日

【取り組みの経過】

年度	経過
H10	3月、市長による環境 ISO14001 認証取得表明。
H11	6月～12月、市長環境 ISO14001 認証取得表明により取り組みの準備。 1月～、研修、環境マネジメントシステムの構築、システム文書の作成、取り組み内容（環境方針、環境目的・目標、プログラム等）の検討・作成。
H12	～10月、研修、環境マネジメントシステムの構築、システム文書の作成、取り組み内容（環境方針、環境目的・目標、プログラム等）の検討・作成。 10月19日、外部審査機関による予行審査。 11月1日、新城市環境マネジメントシステム運用開始。 11月16日、第1回目の内部環境監査。（新城市環境マネジメントマニュアル） 11月24日、第2回目の内部環境監査。（モデル3課） 12月8日～15日、第3回目の内部環境監査。（臨時全課） 12月25日、26日、外部審査機関による初動審査。 1月9日、10日、第4回目の内部環境監査。（臨時全課） 1月23日、第1回目のシステム見直し。（政策会議） 2月5日、6日、外部審査機関による本審査。 2月28日、環境 ISO14001 認証取得。 3月7日、第2回目のシステム見直し。（政策会議）
H13	5月28日～6月5日、第5回目の内部環境監査。（定期全課） 6月25日、第3回目のシステム見直し。（政策会議） 1月7日～9日、第6回目の内部環境監査。（臨時3課） 1月24日、第4回目のシステム見直し。（政策会議） 2月15日、1年次サーベイランス。（環境審査） 総合評価「向上」 3月20日、第5回目のシステム見直し。（政策会議）
H14	4月22日～24日、第7回目の内部環境監査。（臨時環境管理責任者、事務局） 5月29日～6月3日、第8回目の内部環境監査。（定期全課） 6月24日、第6回目のシステム見直し。（政策会議） 11月18日、2年次サーベイランス。（環境審査） 総合評価「向上」 1月15日、第7回目のシステム見直し。（政策会議）
H15	5月7日～14日、第9回目の内部環境監査。（定期全課） 6月27日、第8回目のシステム見直し。（政策会議） 11月10日、第9回目のシステム見直し。（政策会議） 12月12日、第10回目のシステム見直し。（政策会議） 12月19日、第10回目の内部環境監査。（臨時2課） 1月29日、第11回目のシステム見直し。（政策会議） 2月5日、6日、外部審査機関による更新審査。 2月25日、更新審査結果通知「合格」 3月31日、第12回目のシステム見直し。（政策会議）
H16	5月7日～21日、第11回目の内部環境監査。（定期全課） 9月28日、第13回目のシステム見直し。（政策会議） 12月20日、21日、第12回目の内部環境監査。（臨時全課） 1月24日、第14回目のシステム見直し。（政策会議） 2月9日、10日、1年次サーベイランス。（環境審査） 総合評価「向上」 3月28日、第15回目のシステム見直し。（政策会議）
H17	5月10日～27日、第13回目の内部環境監査。（定期全課） 7月4日、第16回目のシステム見直し。（政策会議） 10月1日、鳳来町、作手村との市町村合併。

【新城市環境マネジメントシステム組織図】(平成 17 年 4 月)



< しんしろの環境マネジメント - ISO14001 - >

ISO14001 の取り組みは、組織内部と組織外部の利害関係者（組織の環境パフォーマンスに関心を持つかまたはその影響を受ける個人または団体）との「コミュニケーション」の仕組みづくり、実施および記録することが求められています。

ISO14001 の取り組みを地域に根ざし、組織ごとの取り組み内容を継続的に改善するとともに横のつながりを確立し、コミュニケーションを充実することによって、環境への取り組みの効果がよりいっそう高まることを期待して『新城市内事業所の取り組み概要』を作成しました。

【ISO14001 認証取得事業所等連絡会議開催状況】

開催年月日	連絡・検討事項
第1回（H14.10.21）	法的要求事項 取り組み上の課題 事業所への取り組み支援 サーベイランスのポイント 環境での社会貢献活動 市の取り組み 研修
第2回（H15.1.30）	市議会議案 市の取り組み リスクマネジメント 環境での社会貢献活動 ISO9001 の取り組み 新エネルギーの取り組み
第3回（H15.4.22）	しんしろの環境マネジメント ISO14001 市議会議案 環境首都コンテスト クリーン作戦 法的要求事項
第4回（H15.7.23）	市議会議案 法的要求事項 事業所における ISO の考え方
第5回（H15.10.21）	市議会議案 合併後の ISO14001
第6回（H16.7.23）	市議会議案 各事業所の取り組み ISO14001 の取り組み
第7回（H16.10.27）	市議会議案 新城市の ISO14001 地域づくり関連
第8回（H17.6.27）	市議会議案 ISO 規格改定への対応状況 環境情報の提供状況 地域への貢献活動 地球温暖化対策

【ISO14001 認証取得事業所等連絡会議名簿】

事業署名	取得年月日（予定）	審査登録機関（予定）
三菱電機(株)名古屋製作所新城工場	平成9年11月25日	日本環境認証機構
(株)大紀アルミニウム工業所新城工場	平成11年5月26日	日本規格協会
横浜ゴム(株)新城工場	平成11年5月28日	日本品質保証機構
新東工業(株)新城製作所	平成11年10月8日	日本品質保証機構
共和レザー(株)新城工場	平成12年6月20日	日本自動車研究所
(株)イアックホレーション八名事業所	平成12年10月27日	日本品質保証機構
オーエスジー(株)新城工場	平成12年11月10日	日本品質保証機構
中村建設(株)名古屋支店新城営業所	平成12年12月25日	日本品質保証機構
サミットアルミ(株)新城工場	平成13年8月31日	日本品質保証機構
(株)アイデン	平成14年2月19日	TUV
コマツハウス(株)	平成14年3月22日	日本規格協会
(株)育良精機製作所愛知新城工場	平成14年7月5日	日本品質保証機構
BASF イノアックポリウレタン(株)	平成14年11月8日	日本品質保証機構
バルカーセイキ(株)	平成15年9月26日	高圧ガス保安協会
瀧川オブラート(株)	(未定)	(日本品質保証機構)
新城市	平成13年2月28日	日本環境認証機構

7 日本の環境首都コンテスト

ドイツは、環境 NGO が実施した環境首都コンテストにより、自治体の環境対策が活性化し、ドイツ社会のエコロジー化に大きな影響を及ぼしたといわれています。

日本の環境首都コンテストは、環境自治体をめざす市区町村の動きが顕著になったことから、平成 13 年度より全国の市民団体が、持続可能な地域づくりのための支援、自治体との環境対策や課題などの情報交換を目的として実施されるようになりました。審査は、自治体の人口規模別で採点されますが、4 つの条件を満たした自治体は「日本の環境首都」として評価されます。

これまでは、旧新城市で人口規模 2 万人以上 5 万人未満という部門で環境首都コンテストに参加していましたが、今後は、市町村合併により人口規模 5 万人以上 10 万人未満という部門で参加することになります。

【評価項目】

環境首都コンテストでは、持続可能な地域づくりに必要とされる 16 項目の取り組み状況が審査されます。

- 環境基本条例・ローカルアジェンダ 21・環境基本計画
- 環境マネジメントシステム
- 住民とともにチェックする仕組み・情報公開
- 率先行動・エコオフィス
- 自治体交流
- 職員の資質・政策能力の向上と環境行政の総合化・予算
- 住民のエンパワーメントとパートナーシップ
- 環境学習
- 自然環境の保全と回復
- 健全な水循環
- 風土を活かした景観形成と公園づくり
- エコロジカルな交通政策
- 地球温暖化防止・エネルギー政策
- ごみの減量化
- 環境に配慮した産業の推進
- 自由記述

【日本の環境首都の条件】

- 総合で第 1 位であること。
- 総合点数が満点の 70% 以上であること。(700 点 / 1020 点)
- 16 項目中、3 項目以上が満点の 90% 以上の点数を得ていること。
- 16 項目中、満点の 50% 以下の点数の項目が 2 項目以下であること。

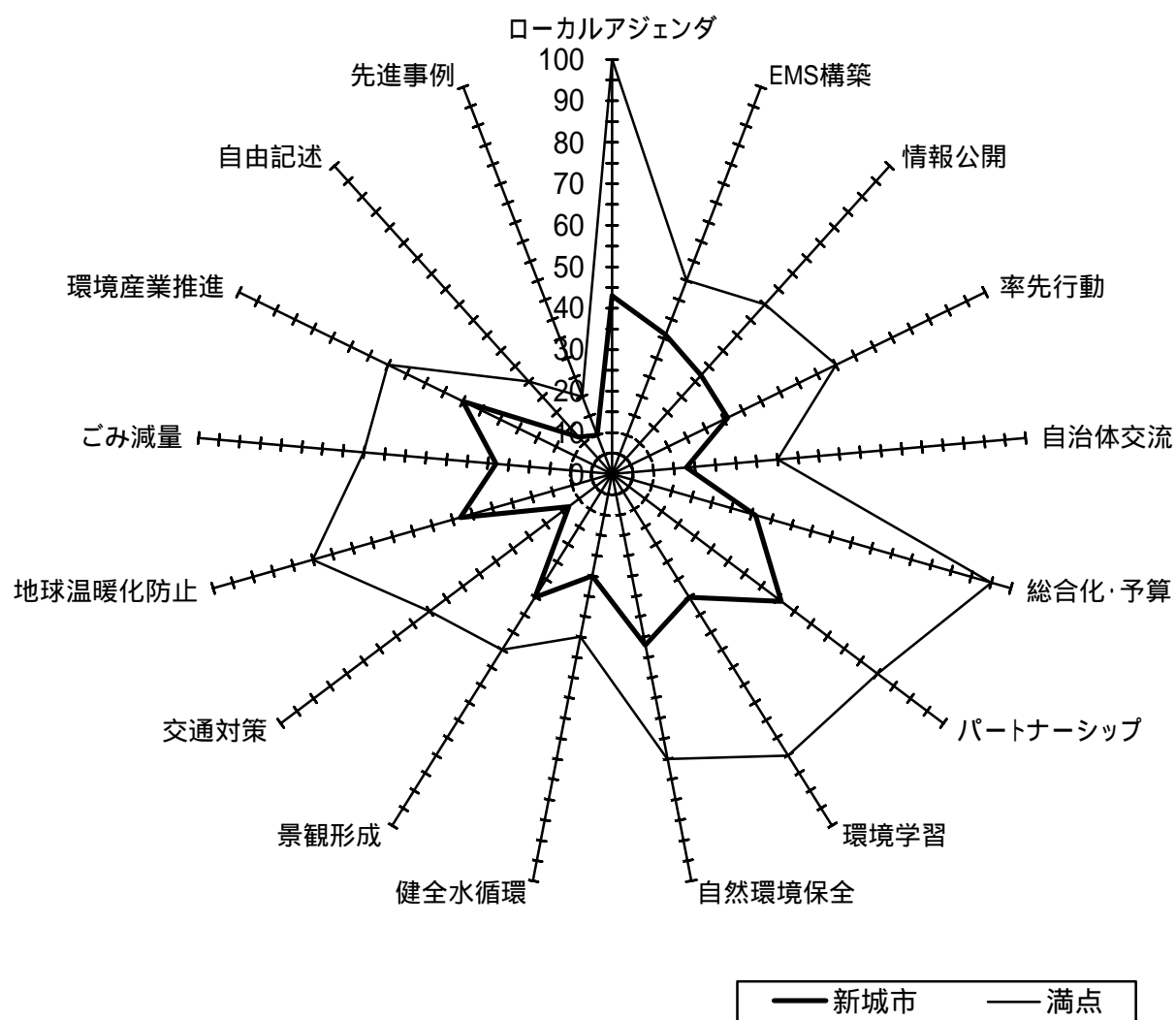
【環境首都コンテストの実施状況】

本市は、市民参加の促進や ISO14001 はじめとする環境への積極的な取り組みにより着実にその評価を上げています。市民とともに環境政策をさらに充実させ「日本の環境首都」と呼ばれるまちづくりをめざします。

【これまでの評価】

年度（回数）	人口規模別		総合		得点
	参加数	順位	参加数	順位	
2001（第1回）	22	第3位	93	第29位	400点中123点
2002（第2回）	18	第2位	115	第22位	1,000点中282点
2003（第3回）	16	第2位	83	第8位	1,020点中381点
2004（第4回）	13	第2位	75	第2位	1,020点中525点

【第4回 環境首都コンテストの項目別評価】



8 町ごと屋根のない博物館事業

町ごと屋根のない博物館事業は、長い地球の歴史の中で形成された美しい自然と景観、郷土の先人が営々として形成・構築してきた個性あふれる伝統文化や歴史的事実を鳳来町の誇る財産であると考え、平成10年4月に「町ごと屋根のない博物館構想」として打ち出しました。

平成11年12月には、町ごと屋根のない博物館構想シンポジウムを開催し、それ以後、毎年「町ごと屋根のない博物館行事」として、多くの自然観察や体験活動を実施してきました。

現在、10種類の「町ごと屋根のない博物館 - ほっ・ほ・鳳来ウォーキングコース」を設定し、豊かな自然と奥深い文化を感じることができるようになっています。

【ほっ・ほ・鳳来ウォーキングコース】

コース	コース名	距離	難易度
	コースのみどころ		
A	山吉田・城山コース	10 km	
	満光寺 柿本城跡 織田医院 大田輪橋 大田輪集落 城山山頂		
B	長篠城周辺コース	10 km	
	長篠城址 大通寺 医王寺 武田勝頼本陣跡 天神山陣地跡 蟻塚 馬場美濃守墓 新昌寺 鳥居強右衛門磔刑跡 鳶が巣山		
C	大島・七郷一色コース	10 km	
	大島ダム右岸 大島ダム左岸 ほうき滝 七郷一色コミュニティプラザ 百間滝		
D	大野・巣山コース	20 km	
	大野頭首工 阿寺の七滝 巣山収蔵庫 ろう石鉱山跡 熊野神 中央構造線露頭 巨大たまねぎ状構造 大野宿		
E	海老・連谷コース	15 km	
	昔の洗い場 オパール採取地 川売梅の里 西沢遺跡 三十三観音 四谷千枚田 曼荼羅石 馬頭観音群		
F	鳳来湖・乳岩コース	10 km	
	弘法の井戸 乳岩川 乳岩 シャクナゲ遊歩道 鳳来湖		
G	布里・塩瀬コース	20 km	
	サイクリングターミナル めがね橋 しし垣 布里用水掘削跡 西向遺跡 洞泉寺 白鳥神社 塩瀬城址		
H	玖老勢・鳳来寺山コース	10 km	
	利修仙人護摩所 高德不動 鳳来寺山自然科学博物館 鳳来寺 東照宮 仙千代丸の墓 おふうの祠		
I	山びこの丘周辺コース	10 km	
	山びこの丘 千原田町道 山寺の寝観音 大石 玖老勢駅跡 分野遺跡 旧田口線跡道 馬頭観音 慶昌寺 津島神社		
J	望月街道コース	10 km	
	桐谷の渡し 引地つり橋 馬の背岩 湯谷温泉 鳳来ゆ～ゆ～ありいな 板敷川 湯谷園地 県民の森		

【難易度】 家族向 中級者向 上級者向

【ウォーキングイベントの開催】

目的	開催日	コース
初秋ウォーキング 小さい秋の気配を見つけに行こう	H16.9.5	山びこの丘～副川～海老
早春ウォーキング うぐいすの初音響く百間滝の“気”を求めて	H17.3.5	大島ダム（朝霧湖）～百間滝
新緑ウォーキング 山寺の寝観音と釣月寺の弘法様をたずねて	H17.6.4	山びこの丘～副川～海老

【野外学習会】

（平成 16 年度）

学習会名	場所	実施日	参加人数
ツツジ、シャクナゲの花を楽しむ	県民の森	4月25日	57名
中央構造線をたずねて	新城～鳳来	5月16日	44名
春の生きものやモリアオガエルの卵を観察しよう	門谷、博物館	5月30日	60名
石巻山の石灰岩と川をつくる地形の観察	鳳来～豊橋市	8月1日	49名
鳳来寺山の森や水辺の生きものをさがそう	鳳来寺山	8月7～8日	24名
きのこを学ぶ	鳳来寺山	10月10日	88名
乳岩の紅葉を楽しむ	乳岩	11月14日	52名
野鳥の生態を観察し、巣箱をつくろう	門谷、博物館	12月5日	42名
スケッチを学ぶ会	門谷、博物館	3月6日	30名

（平成 17 年度）

学習会名	場所	実施日	参加人数
ツツジ、シャクナゲの花を楽しむ	県民の森	4月25日	57名
中央構造線をたずねて	新城～鳳来	5月16日	44名
春の生きものやモリアオガエルの卵を観察しよう	門谷、博物館	5月30日	60名
石巻山の石灰岩と川をつくる地形の観察	鳳来～豊橋市	8月1日	49名
鳳来寺山の森や水辺の生きものをさがそう	鳳来寺山	8月7～8日	24名

9 ほうらい住環境プラン策定事業

これからの魅力ある地域の実現のため、地域住民が主体となって地域づくりに取り組んでいくことが求められます。

「ほうらい住環境プラン策定事業」は、地域の特性を活かした地域計画「住環境プラン」の策定を地域住民に委託し、行政はその計画策定の支援をするとともに、計画の事業化を検討します。

【事業のながれ】

地域住民で構成した組織で地域の住環境について検討し、地域の将来デザイン等を考えて町に提案。

選定を受けた組織は、提案内容を「住環境プラン」として策定・報告。

- ・ 活動費用（100万円）
- ・ 豊橋技術科学大学の助言・コーディネート

【選定を受けた組織】

あいり住環境プラン策定委員会（愛郷・布里地区）
（テーマ）三世代 住んで安心 愛の里づくり

山吉田住環境策定委員会（山吉田地区）
（テーマ）「山よし 田よし 住むによし」緑の職住オアシスをめざして

長篠開発委員会（長篠地区）
（テーマ）自然との共生 地域文化との相乗による潤いのあるまちづくり

10 棚田（四谷千枚田）の保全事業

四谷千枚田は、鳳来地区北端の鞍掛山麓近くに広がる自然環境をそのまま活かした、古き良き日本の原風景そのものです。

明治37年、20日あまりも続いた大雨による山津波で、多くの犠牲者を出すという大惨事がありました。その後、何年もかけて荒地を田に変えたのが今の千枚田です。あぜや石垣で、大雨による土壌浸食を防ぎ、またその保水機能によって調整池の役割を果たし、水が一気に流水するのを抑える災害機能を備えています。



千枚田は、実際には1,296枚あり、現在39戸の人が850枚を耕しています。大雨でも濁らない湧き水でおいしいお米を生み、様々な動植物に生息空間を提供している千枚田は、四季折々に奥深い魅力のある多彩な表情を見せてくれます。

しかし、四谷千枚田は、田一枚の平均面積が90㎡と狭く、あぜ道程度の耕作道がほとんどで、小さな機械を入れるだけでも一苦労です。そのため、稲を背板で運び、手作業による田植えをすることが数多くあります。また、それに追い討ちをかけるように高齢化が進んでいます。

先祖代々受け継ぎ、守り続けてきた千枚田をなくしてはならない貴重な文化遺産として保存していくため、様々な団体が活動を行っています。

【鞍掛山麓千枚田保存会】

平成9年に農家の有志が集まり、「鞍掛山麓千枚田保存会」は発足しました。

石垣やあぜの補修・保全、田の岩除き、稲作の復興など生産性を高め地域の活性化に寄与していけるよう、力と知恵を出し合っています。

【全国棚田（千枚田）連絡協議会】

全国棚田（千枚田）連絡協議会は、日本の農業の歴史的文化遺産、資源として、知恵を学び、環境保全、国土保全と農村文化を考えていこうと、平成7年9月に設立されました。自治体会員は、新城市（旧鳳来町）のほか58の自治体が加盟しています。

協議会の主な事業

- 1．棚田についての情報交換、交流に関すること
- 2．棚田に関する歴史、実態、活用に関する調査
- 3．講演会、講習会、サミット、文化的行事等の推進
- 4．その他、本会の目的を達成するために必要な事業

【全国棚田（千枚田）サミット】

平成 17 年 9 月 2 日、3 日に「第 11 回全国棚田（千枚田）サミット」が旧鳳来町で開催されました。平成 11 年に農林水産省の「日本の棚田百選」に選定されている四谷千枚田は、中山間地の棚田を多様な視点でとらえ、都市住民との交流で理解を深めてもらい、地域の活性化につなげたいという町の取り組みが評価され棚田サミットの開催という運びとなりました。

サミットは、「緑と水と心のオアシス」をテーマとして、地元四谷の連谷小学校の児童が日ごろ取り組んでいる活動を「私たちの千枚田」として事例発表したほか、千枚田の絵画コンクール表彰式などが行われました。

第 11 回全国棚田（千枚田）サミット共同宣言

急峻な山肌や丘陵地に拓かれた棚田は、先人の知恵と努力によって生まれました。先人の汗と涙が染み込んだこの地を守り続ける生産者の強い決意とたゆまぬ努力によって、今年も棚田は黄金色に染まり、たわわに実った稲穂を育む母なる農地となりました。その陰には、幾度かの土石流災害などに遭いながらも、営々と復旧に努めた先人の苦勞と生産者の努力があることを忘れてはなりません。この棚田が見せる曲線美と色彩は、四季折々の景観の美しさ、日本の原風景として長い間人々の心に潤いと安らぎを与えるオアシスとなっています。

一方、棚田を守ろうとする農山村にも生産効率重視の風潮に加え、高齢化の進行や担い手の減少などにより荒廃地化が進み、棚田を取りまく状況は、ますます厳しさを増しております。しかし、こうして先人から受け継がれてきた棚田そのものの持つ役割が、近年大いに見直されてきました。農業生産活動のみでなく、国土の保全、水源かん養、良好な景観形成など多面的な機能への期待に加え、今日では、保全活動の促進のための都市住民との交流も始まり、新たな利活用に向けた取り組みがなされています。

山(緑)と水、棚田とともに生きる「四谷の千枚田」に、棚田への熱い思いを抱いて参集した私たちは、中山間地域のさらなる維持活性化を目指し、次のことを確認し積極的に推進することを宣言します。

記

- 1 私たちは、中山間地域等直接支払制度のより良い確立を望み、知恵を出し合い、自ら新たな行動を起こし幅広い保全活動を展開します。
- 1 私たちは、棚田をはじめとする地域資源を積極的に活用し、都市と農山村の交流や自然に接する体験を通じ、グリーンツーリズムなどのあらゆる方法で地域活性化を目指します。
- 1 私たちは、先人の知恵と努力と多くの人々の手によって守られてきた棚田、文化的景観の地であり国民の共有財産である棚田を後世に伝えていくため、より多くの人々の理解と支援を得られるように幅広い活動を展開します。
- 1 私たちは、棚田や山林が持つ水源のかん養、良好な景観形成などの多面的な機能を増幅させ、人々の心に潤いと安らぎを与えるオアシスとなるよう、緑と水を守り地球環境にやさしい農山村社会を維持します。
- 1 私たちは、より多くの人々に棚田保全のネットワークを広げ、棚田と都市が共生・交流する、農山村社会を実現するため努力します。

1 1 太陽光発電導入促進事業

現在の私たちの生活において、石油、ガス、電気などのエネルギーはなくてはならないものになっています。しかし、この豊かな生活を支えるためのエネルギー消費量の増大や化石エネルギー供給の枯渇、地球温暖化などが大きな問題となっています。

このような状況の中で、環境に配慮した自然エネルギーなどの新しいエネルギーの確保が必要となっています。

本市では、平成 16 年度から地球温暖化防止対策の一環として、市民のクリーンエネルギー利用を積極的に支援することにより環境保全に対する意識の高揚を図るため、太陽光発電システムを設置する方に対して、システム設置費の一部を補助していく「新城市住宅用太陽光発電システム設置費補助金交付事業」を開始しました。

補助金の交付を受けることができる方は、自ら居住する市内の住宅（店舗等との併用住宅を含む）に、財団法人新エネルギー財団が実施する助成を受けてシステムを設置する方が対象で、市税を完納していることが条件になっており、予算の範囲内で先着順に受付を行っています。

補助金の額は、10 万円にシステムを構成する太陽電池の最大出力値（キロワット表示・小数点第 2 位未満を四捨五入）を乗じた額です。（上限額は 40 万円です。）

例えば、3.65 キロワットの場合は、

$$3.65 \text{ kW} \times 100,000 \text{ 円} = 365,000 \text{ 円} \quad \text{となります。}$$

国（窓口は（財）新エネルギー財団）からの補助金額は、平成 16 年度に 1 kW 当たり 4.5 万円から平成 17 年度に 2 万円となりましたが、市の補助金は 1 キロワット当たり 10 万円として継続しています。

【新城市住宅用太陽光発電システム設置費補助金交付実績】

年度	申込件数	最大出力	最小出力	総合計出力	補助金額
H16	5 件	5.70 kW	3.20 kW	21.32 kW	1,920,000 円
H17	5 件	5.30 kW	4.00 kW	23.84 kW	2,000,000 円